



LINE公式アカウント、開設しました。
友だち登録で週3回、人気の記事が
届きます!QRコード読取で簡単登録。



「室伏広治」難病との苦闘

負けるな鉄人

「10万人に1人の稀な病」「五輪の顔」は病状公表を望んだが……
弱みを見せず「聖火リレー」出席「入行式」でも訓示
「池江璃花子」に続く復活が「東京五輪」を救う

スポーツ庁長官

20

小説家医師 知念実希人 vs. 忽那賢志 感染症専門医(国立国際医療研究センター)……44

▼最前線に闘う臨床医たちの本音 ▼「治療薬」より「ワクチン」が重要な理由 ▼「なんとなく怖い」人体実験では「不安への処方箋」 ▼「変異株」にも効果「実際のところ」は? ▼「見えてきた出口

高齢者への接種開始「コロナワクチン」は我々を救うか

空手「種草」強化委員長「職を辞す覚悟です」渦中の師範、胸中を語る

「未来の年表の著者が警告」『ベビィ・ショック』コロナは少子化を18年早めた

戦後史に残る「出生数急落」婚姻数激減 ▼「年金破綻危機に「高齢消費者」が消滅

NHKに大ナタを、第三回 受信料規定はいつなせ作られたか 早稲田大学教授 有馬哲夫

「長いお別れ」24 「ライグル」の綿花で中国不買運動に立ちすくむ日本企業

「田中邦衛 永別で竹下景子」が回顧する我が心の「北の国から」

「有吉弘行」夏目三久「結婚を許した芸能界のドン」舞台裏

「ZOO」前編が早くも手を引いた「養育費取り立て」ビジネス

「バウハラ」発表

「信頼できるか」ビジネスマンの「本尊」

「日経新聞」はこんなに間違っている

義父「河村建夫元官房長官」が嘆く ギリシヤから「聖火」を運んだ 五輪組織委「女性幹部」の火宅

30

京都 石野の
白味噌

創業天明元年
(1781年)

大 石野味噌

京都府下京区油小路通四條下ル石井町 電話(075) 361-2336
http://www.ishinomiso.co.jp
お買い求めは百貨店、食料品店にて

佐藤優の頂上対決 青木節子 慶應義塾大学大学院 法学研究科教授	86
MONEY	
多角化裏目でしゃぶり尽くされた「ナニワの名刺」告発の行方	50
テンポ	
ロビー／創価学会が「結婚式場」購入	120
ビジネス／銀座「投資家バー」訪問記	120
タウン／「肌色」表記は本当に差別か	121
スポーツ／甲子園「球数制限」不公平?	122
エンタメ／「石井ふく子」語る橋田さんの死	122
グルメ	124
スクリーン	125
テレビジョン	126
ガイド	127
Bookwormの読書万巻 渡部陽一	101
新々句歌歳時記(嵐山光三郎 俵万智)	80
結婚	108
墓碑銘	109
文殊のストレッチ	99
掲示板	74
小説	
一九六ー 東京ハウス	真梨幸子 76
奈落の子	真藤順文 110
神曲	川村元気 68
黒い報告書	蜂谷 涼 93
クラブ・ア	
「異邦人のグルメ」	
「ディープ」みんぱく探検隊	
「優越感」具現化カタログ	
「日本ルネッサンス」	櫻井よしこ 128
生き抜くヒント!	五木寛之 52
変見自在	高山正之 130
十字架が見える	北方謙三 54
スジ論わたしのルールブック	坂上 忍 75
だんだん蜜味	壇 蜜 82
誰の味方でもありません	古市憲寿 61
私の週刊食卓日記	川瀬良子 58
TVふーん録	吉田 潮 65
この連載はミスリードです	中川淳一郎 62
医の中の蛙	里見清一 84
人生で必要な英語はすべて病院で学んだ	加藤友朗 83
アスリート列伝 覚醒の時	小林信也 56
それでも日々はつづから	燃 え 殻 49
気になる一手	渡辺 明・吉原由香里 66
夏夜冬扇	片山杜秀 16
「昭和歌謡」残響伝	タブレット純 138
俺は健康にふりまわされている	宮川サトシ 142

「異邦人のグルメ」	
「ディープ」みんぱく探検隊	
「優越感」具現化カタログ	
「日本ルネッサンス」	櫻井よしこ 128
生き抜くヒント!	五木寛之 52
変見自在	高山正之 130
十字架が見える	北方謙三 54
スジ論わたしのルールブック	坂上 忍 75
だんだん蜜味	壇 蜜 82
誰の味方でもありません	古市憲寿 61
私の週刊食卓日記	川瀬良子 58
TVふーん録	吉田 潮 65
この連載はミスリードです	中川淳一郎 62
医の中の蛙	里見清一 84
人生で必要な英語はすべて病院で学んだ	加藤友朗 83
アスリート列伝 覚醒の時	小林信也 56
それでも日々はつづから	燃 え 殻 49
気になる一手	渡辺 明・吉原由香里 66
夏夜冬扇	片山杜秀 16
「昭和歌謡」残響伝	タブレット純 138
俺は健康にふりまわされている	宮川サトシ 142



負けるな 鉄人 スポーツ庁長官 特集 「室伏 広治」 難病との苦闘



▶「弱みを見せず『聖火リレー』出席『入庁式』でも訓示」

上は聖火リレーの出発式。元気そうだが……

▶「五輪の顔」は病状公表を望んだが……

▶「池江璃花子」に続く復活が「東京五輪」を救う

金メダルをとったアテネ五輪の雄姿

ところが、先のスポーツ紙デスクは、

病室で公務をこなす

「鈴木長官とくらべ、イベントへの参加など露出が増

「東京五輪はIOCと日本政府、東京都、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の協力のもとに成立するもので、室伏長官は文科省外局のスポーツ庁という、日本政府の一機関の長にすぎません。丸川珠代担当大臣のほうで、五輪開催の実務面では職責が大き

「これを、室伏長官の五輪開催への決意表明だ」と受けとるスポーツ関係者が多いですね（同）
開催への強い意欲があればこそ言葉だろ。しかし、その背後における不屈の努力は、予想をはるかに超えるレベルのものだった。室伏長官は人知れず、難病と闘っていたのである。病名は脳リンパ腫――。

記者とのやりとりや情報発信の際も、いつも物事を簡潔に話すので、メディアからの受けも非常によく、スポーツ庁長官は「室伏しかない」と話す関係者も少なくありません」
ほかの五輪担当記者も、「2月に森喜朗氏が女性蔑視発言で組織委員会会長を辞めてからは、海外に向けた、日本の顔」として、存在感を増しており、スポーツ庁関係者も「替えの利かない存在」と話すほど」と、次のように話す。

いかもしれません。しかし、アテネ五輪で投擲種目ではアジア初の金メダルを獲得するなど、海外への知名度やパイプは、丸川大臣と比較になりません。室伏長官が五輪開催に向けたキーパーソンになっていることを、否定する人はいません」
この4月1日、スポーツ庁の職員に向けて訓示を行って「東京大会の開催に向けて、一丸となって取り組んでいきたい」と語り、「これを、室伏長官の五輪開催への決意表明だ」と受けとるスポーツ関係者が多いですね（同）

3カ月半後に迫った東京五輪。白血病を克服した池江璃花子の代表内定が、コロナに負けない五輪成功への狼煙になってほしいものだ。同じ気持ちに違いないのが、世界に向けた五輪の顔でもあるスポーツ庁の室伏広治長官だが、実は、人知れず難病と闘っていた。

だが、人類はウイルスごときに負けてはいられない。病を克服した池江もいままた、そういうメッセージを投げかけているようだ。五輪からんで、同様に

雨降って地固まる。一步になつてくれないか。白血病患者を克服した競泳の池江璃花子(20)が、東京五輪代表に内定したことである。
世論調査のたびに、7割の人が中止や再延期を求める東京オリンピック・パラリンピック。開会式が3カ月半後に迫りながら、新型コロナウイルスの感染状況によっては、土壇場での中止もありうる――。そんな状況下で肅々と準備を続けるためには、選手たちも関係者も、強靱な精神力が必要とされよう。

不屈のイメージを放つのが、昨年10月に鈴木大地氏の後を受けてスポーツ庁長官に就任した室伏広治氏(46)である。言わずと知れた2004年のアテネ五輪のハンマー投げ金メダリストで、12年のロンドンまで4大会連続で出場。強健な鉄人のオーラで彼の右に出る者はいない。スポーツ庁長官としての評判も同様で、「室伏長官が困ったり、焦ったりしている姿を見たことはありません」と、スポーツ紙の五輪担当デスクが言う。

「この困難な状況下、五輪を成功に導かなければならない、という相当なプレッシャーにさらされているはずなのに、室伏長官は重圧や悲壮感を一切見せません。



えたな、と感ずます」
と話す。事実、3月だけ見ても、5日には都内のイベントに出席し、青山学院大学陸上競技部の原晋監督らと意見交換。17日には日本テレビ系の情報番組「スッキリ」に生出演し、23日には定例会見で五輪について「(選手らを)全力でサポートする」と表明。25日には福島県のJヴィレッジで行われた聖火リレーの出席式に出席。そして、4月1日の訓示であった。
病氣と聞かされても、にわかには信じがたいほど、旺盛に活動しているが、
「室伏さんは昨春秋、歩き

方がおかしくなると、転んだりもしたために検査を受けたところ、脳腫瘍の疑いがあつたのです。すぐに開頭手術を受けると、脳腫瘍ではなく、脳原発性の悪性リンパ腫でした」
と明かすのは、都内のさる病院の関係者である。くどうちあき脳神経外科クリニックの工藤千秋院長に補ってもらおうと、

「脳リンパ腫は、MRI検査などの画像上では脳腫瘍との区別がつかず、脳腫瘍がある。多くの場合、脳腫瘍だと思つて手術をし、脳リンパ腫だと発覚します」
また、工藤院長によると、脳リンパ腫は、脳原発性悪性リンパ腫(中枢神経系原発性悪性リンパ腫)と、全身にできるリンパ腫が脳に転移した悪性リンパ腫の2種類に大別される。先の関係者によれば、室伏長官は前者だが、これはどんな病気か。病理専門医、細胞診療専門医(全国医師連盟理事)の榎木英介氏が説明する。

「発症者は10万人に一人といわれるほど稀な病気です。実際、発生頻度は脳腫瘍の2〜4%程度、脳以外で発症する悪性リンパ腫の1%未満とされます。脳にはリンパ組織が存在しませんが、それなのに悪性リンパ腫が発生する原因は明らかになっていません。発症しやすいのは45〜80歳。悪性リンパ腫一般はリンパ節にできることが多く、ほかのリンパ節や内臓に転移しますが、脳リンパ腫は脳を中心とする中枢神経や脊髄腔、眼球内への転移にとどまり、ほかの組織には影響を与えません。そのかわり増殖が速く、放置すれば数カ月で亡くなることもあります。中枢神経に発生するので、頭がぼんやりしたり、言語障害を伴ったりします。脳内で悪性リンパ腫の細胞が増えると脳が圧迫され、頭痛や嘔吐、痙攣や目が見えにくくなるなどの症状も報告されています」
しかし、昨春秋といえ

「最後の移植だけが怖い」

気になるのは治療の可能性だが、さる脳外科医は、「決して超難病というわけではありません」と前置きして説く。
「50歳以下であればほぼ完治する病気です。50歳を超え発症した場合、このメソトレキセートが最も効果的だとされています」
事実、昨春秋の室伏長官のスケジュールを振り返ると、たとえば、10月16日に横浜市内の中学校で部活動を視察した後は、11月29日の静岡新聞のインタビューまで、オンラインを除けば表に出ておらず、その後は大みそか、紅白歌合戦のゲスト審査員を務めるまで、公の場に出ていない。スポーツ庁関係者が言う。
「入院中は病室で公務を行い、幸いにもコロナでリモートワークができる環境なので、部屋でも十分に仕事をこなせたようです」
幸い室伏長官は46歳だから、治療をすれば命に関わ

ることはなさそうだが、この話からわかるように骨髄の細胞移植が必要だという。先の病院関係者が言う。
「室伏さんは3月中旬、自身の骨髄の細胞を取り出す手術を受けました。『スッキリ』に出演する前だったかと。その後、イベントをいくつかこなした後、4月半ばに再び入院する予定です。その際は、まず抗がん剤を大量に投与した後、取り出した骨髄の細胞を点滴で移植します。自家末梢血幹細胞移植という治療法で、池江選手のように他人の骨髄の細胞を移植する。同種移植にくらべ、自分の骨髄の細胞を移植する。自家移植は、副作用のリスクが低いと聞きます」
ただし、よほどのことで

は悩みを見せない鉄人の室伏長官が、この移植治療についてだけは、
「最後の移植だけが怖いんだ」と、弱みを見せていたと伝え聞きました」
と、前出とは別の病院関係者が言う。もともと、先のスポーツ庁関係者は、「順調なら、ゴールデンウィーク明けには完治し、退院できると聞いている」と話し、それを受けて先の脳外科医が解説する。
「この治療の場合、点滴で骨髄を移植した後、抵抗力がゼロになる。だから2週間ほど無菌室で入院するはず。ただ、そこを乗り越えられれば完治すると思います。論文によれば、この治療法の再発率は0%だといえます」
免疫にかかわる病気なので、現在、病室には大きな

「全力で努めてまいります」

いずれにせよ、室伏長官自身が病気の公表を望んでいたのであれば、それを尊重するという選択はなかったのだろうか。
むしろ、ここまで職務と闘病は両立している。室伏長官自身、このまま職責を全うしたいという強い意志

を持ってしていると推察される。だが、そうだとすると、病気を抱え、過酷な治療に耐えながら弱みは見せず、闘病の事実を伏せて公務を遂行し続ければ、生来の身体がどれほど頑健であつても、文字通り身が持つまい。心配なのは、骨髄の移植

が無事に終わったのちである。抵抗力が落ちてくるのに、間近に迫った五輪のためにあえて人前に出続ければ、身に危険が迫る可能性がないとは言えないようだ。そうならば室伏長官自身は、かかりか、東京五輪の開催国である日本のリスクにもつながるだろう。
特に室伏長官は、国家機関の高官で、五輪の開催準備を担う公的な重職の本丸にいる。その健康状態が国民の利益に直接影響する立場なのだから、本人が希望したのであれば、病気が公表したうえで、可能な範囲で「日本の顔」として職務を果たしてもらおう。そうできれば一番よいのではなからうか。
とはいえ、病氣は高度にプライベートな問題。室伏長官本人の意思を確認すべきと考え、闘病について本人に直接尋ねた。すると、「通常通り、スポーツ庁を通してください」という返答だったので、



義父「河村建夫元 ギリシャ 「聖火」を 五輪組織委「女

▶「河村元長官」長男に起
▶どうしても別れられなか

ギリシャから聖火を持ち帰った組織委の河村裕美氏

官房長官」が嘆く から 特集 運んだ 性幹部」の火宅

こされた不貞訴訟
ったお相手は「寄付文化」伝道者



不肖の息子？(長男の建一氏=上=)と河村元官房長官

と別居しており、離婚協議中。そうなる原因の一つとなったのは、彼女の不倫なのです。

裕美氏は大阪大を卒業後、1998年に文部科学省(旧文部省)に入省。2004年に結婚し、翌年に長男、翌々年に次男が生まれている。夫は、自民党の河村建夫元官房長官の長男で政策秘書を務めていた河村建一氏。ゆくゆくは河村元官房長官の後継者として地盤を受け継ぐと見られる人物だ。裕美氏は15年春から2年間、スイスにある国際オリンピック委員会(IOC)に日本人で初めて職員として派遣されているが、不倫が夫に発覚したのはその直前だった。

お相手は、

「現在40代後半のNPO法人代表です。日本に寄付文化を根付かせる活動もしており、NPO業界ではそれなりに知られた人物です」

(先の関係者)

ここでは仮に山本氏としておこう。彼と裕美氏の不倫が夫の知るところとなったのは14年。その後、紆余

東京五輪の開会式まであと3カ月余り。いよいよ盛り上がりつつある。いよいよ盛り上がりつつある人、おそらく感じている人は、おそらくほとんどいい。何しろ、産経新聞とFNNが3月半ばに行った世論調査では、東京五輪・パラリンピックについて「中止もやむを得ない」と「再延期せざるを得ない」が合わせて71.7%。「開催出来ない」と考えている人が圧倒的に多いのだから盛り上がるはずがないのだ。

そんな中、3月25日について始まった聖火リレー。著名人走者の辞退が相次ぐなど、逆風下でのスタートとなったが、まさにその日、強烈な批判の寄稿を掲載したのは、アメリカで五輪の放映権を持つNBCのニュースサイトだ。タイトルは「リレーの聖火を消すべきだ」。執筆者は元プロサッカー選手でもある米バシフィック大政治学教授のジュールズ・ポイコフ氏で、「コロナのパンデミックの中、聖火リレーは公衆衛生を犠牲にする危険を冒している」

と訴えたのだ。東京五輪の聖火はこれまでで散々コロナに翻弄されてきた。ギリシャで採火式が行われたのは昨年3月12日。世界保健機関(WHO)が「パンデミック」と発表した翌日のことだった。当初の予定では、柔道男子で五輪3連覇を果たした野村忠宏やレスリング女子でやはり五輪3連覇の偉業を成し遂げた吉田沙保里がギリシャから聖火を運ぶ予定だったが、コロナ感染拡大の影響で渡航が取りやめに。代わりになったのが、大会組織委員会幹部の河村裕美氏(46)である。聖火の灯るラントンと彼女らを乗せた特別輸送機が宮城県の航空自衛隊松島基地に到着したのは昨年3月20日。その4日

五輪歓迎ムードが広がっているとはいえない状況の中、スタートした聖火リレー。昨年、ギリシャから聖火を運ぶ大役を担った五輪組織委の女性幹部には、隠しておきたい事情があった。彼女の義父、河村建夫元官房長官は長男夫婦の関係が破綻していることを認め……。

曲折を経て、夫の建一氏が妻の裕美氏と不倫相手の山本氏を相手取って民事訴訟を起こした。妻に対する訴訟はすぐに取り下げたものの、山本氏とは訴訟を続け、16年に山本氏が160万円

「ほぼ半同棲」

夫が妻の不倫に気づきつかけたのは、フェイスブックだった。

(二人のやり取りを見ると、互いに「好き」や「愛してる」というメッセージが飛び交っており、一見して二人が男女の交際関係にあることは明らかでした)(建一氏の陳述書より)

例えば、こんな具合。

裕美 19時半に青山行くねー

山本 うん。きて。いい子にしてきて。また一番乗りやー

裕美 わかった？愛してるよ

裕美 お食事用意して冷蔵庫にいれておいたよー

山本 ありがと。夜食べるわ

を支払って陳謝し、5年間は直接連絡を取り合わない」と約束するとの条件で和解。その訴訟記録をひもとくと、「聖火リレーの顔」に似つかわしくない、「火宅」の内情が見えてくる――。

裕美 うふふ

二人が出会ったきっかけについては建一氏側と山本氏側で主張が異なるが、裕美氏と山本氏は五輪関係の仕事などで一緒にいることも多く、親密になつていったようだ。また、山本氏は建一氏とも友人で、共通の友人も多いという。

フェイスブックでのやり取りを発見した建一氏は当然、裕美氏にそのことを問いただした。それに対する

後に東京五輪の延期が決まり、以降、聖火は都内のある場所でも秘密裏に保管されてきたのである。

裕美氏は組織委の聖火リレー室国際調整企画担当部長などの肩書きで複数のメディアのインタビューを受けている。いわば「聖火リレーの顔」。聖火リレーがスタートする前日に毎日新聞に掲載された記事では、聖火を運ぶという重大な任務を果たしたことについて、「そんな大役を任せられるとは思ってはいなくて、私で良かったのだらうか。今でも思います」

そう語っていたが、事情を知る関係者によると、

「実は、彼女が、聖火リレーの顔」で大丈夫かと心配する声がその周囲で上がっています。現在、彼女は夫

彼女の答えは、「じゃれていただけ」。その後、第三者を交えて建一氏と山本氏が話す場が設けられたが、そこで山本氏はあたかも裕美氏と口裏を合わせたかのようになり、「じゃれていただけ」と弁明した。

もちろん建一氏がその答えに納得することはなく、探偵事務所に裕美氏の素行

夫の過去の不倫を……

一例としてある日の二人の行動を紹介しよう。

8時39分 二人で山本自宅を出発。その後、タリーズコーヒード朝食

9時45分 二人は別れて、山本氏はタクシーに乗車して自らの勤務先に

18時55分 二人が都内で合流し、タクシーに乗る

19時2分 山本氏のみが先に降車し、裕美のカバンを持って自宅に戻る。裕美はスーパーで食事などの買い出しを行う

19時26分 裕美が買い物袋を持ってタクシーで山本氏自宅に戻る

調査を依頼するに至る。調査期間は延べ1週間ほど。すると、裕美氏は連日のように山本氏と会っており、山本宅に連泊していることが判明。それだけでなく彼女はスーパーで買い出しなどもしており、週末には仲良くランニングまで。『ほぼ半同棲状態である』——それが探偵事務所の結論だった。

こうした調査結果を突きつけられても裕美氏は不貞行為に及んだことを認めなかった。しかし、後の話し合いで山本氏に対して恋愛感情を持っていたことを認め、建一氏に謝罪している。ここまでならよくある「不倫騒動」と言えるかもしれない。だが、河村夫妻のそれには裏面が存在する。実は不倫の事実を突きつけられ、「攻勢」に出たのは裕美氏のほうだったのだ。その背景にあるのは、建一氏の過去の不倫である。氏の陳述書によれば、浮気が発覚したのは次男が生まれた直

後。その際は建一氏が謝罪して夫婦関係を継続することになったが、12年頃には、裕美が、私が所持していた女性用の性交渉の商品を発見して問い質したことがありました(建一氏の陳述書より)

そうしたこともあり、夫婦関係が元々険悪だったところに裕美氏の不倫が発覚。フェイスブックでの山本氏とのやり取りについて建一氏から指摘された彼女は「じゃれていただけ」と言い訳した上で、次のようなメールを夫に送っている。

私の想像以上のことが起きていて、耐えられなくなりましたので、離婚をしたいと思えます。接触をしたくない、関わりたくない、一緒にいたくないと電話で言った通りで、完全別居を求めます

探偵事務所の調査結果を突きつけられた際には、次のように語ったという。

「1カ月間完全別居をしてください。これは貴方への内外共に示すための『罰』です。1カ月間静かな環境で自分の頭を整理したい」

自分の不倫を棚に上げ、夫の過去の不倫を蒸し返して「罰」を求める妻。

ここまでこじれたら関係修復は不可能と思えるが、建一氏は夫婦関係の継続と同居を要望した。結局、裕美氏は恋愛感情があったと認めて建一氏に謝罪したが、その後も山本氏と会っていたことが発覚。それもきっかけとなり、建一氏は法廷闘争を決意したのだ。

先にも触れたが、裕美氏はこの不倫トラブルの直後、I O Cで働くためにスイスのローザンヌに移住。2年後に帰国した後は組織委幹部として五輪をPRする仕事に携わってきた。建一氏側が訴訟資料で(妻は)公益的なプロジェクトに深く関与するものであり、(中略)一般人に比して社会的にも高度に廉潔性や潔白性が要請される」と批難した所以だ。

当事者たちは何と言うか。

裕美氏は弁護士を通じて、「私的なことでもありませんので、コメントできません」

建一氏には電話で質問を投げかけたが、何を聞いて

も無言。山本氏も、「すみません僕それ何もしやべれないことになっていました」

と、逃げの一手。三者とも口を閉ざすのだった。

唯一取材に応じた河村建夫元官房長官は長男夫妻が別居中であることを認めた上で、二人が未だ離婚に至っていない理由について、「彼女(裕美)は、オリンピックが終わるまではそっとしておいてくれということだと私は聞いていますよ」

裕美さんは聖火リレーの顔として活躍している。「役人だから、あんまり派手になることはないけど。今はオリンピックで忙しいからそれ(離婚)どころじゃないということまで延び延びになって、ちゃんとした話し合いが出来ていない」

二人とも離婚の意思はあるのか?

「そういう風に聞いている」

淡々と話す河村元官房長官。無論、心の中では、不甲斐ない長男夫妻の「いがみあい」をおおいに嘆いているに違いない。

人呼んで、キックの鬼。

沢村忠さん(本名・白羽秀樹)は、キックボクシングで国民的な人気を誇った。

必殺技の真空飛び膝蹴りは喝采を浴びた。助走なしで垂直に飛び上がり、膝蹴りを頭部に叩き込む。相手はひとたまりもなく崩れる。

1967年からTBSで試合が放送され、その迫力は視聴者を釘付けにした。

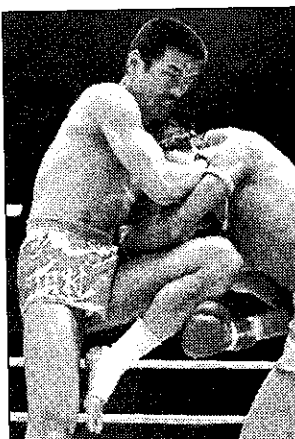
実況を担当したTBSの元アナウンサー、石川顕さんは振り返る。

「実況席まで血しぶきが飛んできました。伸び盛りの選手が沢村さんに挑んだ時、沢村さんはローキックだけで倒してしまった。相手の足が赤から紫色へと見る見るうちに変わるのがわかりました。強いだけではない。武士道を体現していました。誰にでも優しい紳士。人間的にも引きつけられました」

半生は、梶原一騎の原作で漫画『キックの鬼』となりテレビアニメ化もされた。「天才と呼ばれ、スターに

なつてからも一番にジムに来て、誰よりも遅くまで練習していたのです。今、一生懸命練習をしておけばもつと強くなれると言いい、自分の句を客観的に理解していました」(石川さん)

43年、満洲の新京生まれ。引き揚げ後、東京で育つ。祖父から武道を学びスポーツは万能。日本大学藝術へ



入学部に進んだのは、シナリオを書くことにも興味があったためだ。大学時代に空手の剛柔流で頭角を現す。

キックボクシングはプロモーターとして活躍していた野口修さんが、タイの格闘技ムエタイを参考に考案したもの。野口さんに誘われ、66年、日本キックボクシング協会に参加。沢村さ

んはブームの立役者となる。ノンフィクション作家の織田淳太郎さんは言う。「ファイトマネーのほとんどを福祉施設に寄付してしました。武道を儲けの手段にしてはならぬという祖父の教えを守り続けていたのです。どんなに疲れていてもサインに応じ、養護施設への訪問も続けていました」

沢村さんは、まっすぐ目を見て話したから信用しよう、と言ってくれました。引退後3年ほど、自動車修理工場の見習い工として月給約13万円働き、独立。キックボクシングをやり尽くし、新しい人生を一から始めた、車は嘘をつかないからねと、話して下さった。事を荒立てるのが嫌いで、時間はかかっても

唯一の贅沢は外車を運転することだった。77年、34歳で引退を発表。公式の試合だけで232勝(228KO)5敗4分という驚異的な戦績。過酷なスケジュールの中で。引退後、約9年も消息不明に。満身創痍で廃人になったとまで噂された。「居場所を突き止めた時、

墓碑銘

AN INSCRIPTION ON A TOMBSTONE

キックの鬼、国民的ヒーロー

沢村忠さんの栄光と失踪

自分で考え結論を出そうとしていたのです(織田さん)

1男2女を授かる。娘の玲子さんはスカウトされ、タレントや歌手として活躍。

「信頼したから友達だ、と自宅にも呼んで下さった。質素な暮らしでトロフィーなど活躍を偲ばせるものは全く置かれていなかった。子供達にも問われなければ

昔話をしなかったくらい徹底していました(織田さん) 2001年に「真空飛び膝蹴りの真実」を上梓したスポーツライターの加部究さんは言う。

「腰の低い丁寧な人で、頑固一徹な面もありました。往年のイメージを崩さないことを大切に行っている様子が伝わってきました」

空手の呼吸法を毎日続けるなど、自分に厳しかった。昨年夏に体調を崩し、進

行した肺病が見つかった。昨年10月には細田昌志さんが「沢村忠に真空を飛ばせた男 昭和のプロモーター・野口修評伝」(新潮社刊)を出版、改めて沢村さんが注目されていた。

3月26日、78歳で逝去。「講演を勧められても、お茶を飲みながら小人数で話すなら、と遠慮するほど。ひとりの人間として対等に付き合っ

て欲しいと言われ、やはり以前の活躍が浮かびます。孤独だったのかもしれない(織田さん)



太閤園(中より)

敷地面積は約2万5000平方メートル

ロビー

創価学会が名門結婚式場 300億で買った目論見

大阪城の北、桜の通り抜けて有名な造幣局の川向こうに広大な敷地を有する結婚式場「太閤園」。ちょうど桜が咲き始めた3月下旬、その不動産登記簿に新たに「創価学会」の四文字が記され、経済界にはどよめきが広がった。

全国紙記者によれば、「太閤園を所有・運営していたのは、全国に「ワシン

トンホテル」などを展開する藤田観光。もともとは同社のルーツである藤田家の私邸を受け継いだもので、東京の「椿山荘」、箱根の「小涌園」と並び、藤田観光の象徴的存在でした」

コロナ禍で債務超過寸前に陥った藤田観光は、2月に太閤園の売却を発表。売却額は優に300億円を超え、買い手の素性に注目が集まった。ところが、

「当初、藤田観光は、買い手との約束を理由にたくさんに売却先を明かさなかった。蓋を開ければ創価学会で、今度はその使い道が

関心の的になった」(同) ついに、創価学会がブライダルビジネスに参入か。そんな臆測まで乱れ飛んだが、どうやら購入目的は別にあるらしい。

「大阪の学会員たちは、これで悲願が達成されると大喜びでしょう」

そう声を潜めるのは、関西地区のさる学会幹部だ。

「ここ数年、大阪の学会は、市内の中心部に、関西最後の会館を作ろうと、血眼になって土地を探してきた。ある大手企業の所有地に目をつけ交渉に漕ぎつけたこともあったようですが、企業側が学会相手の売却に二の足を踏み、実現しませんでした」(同)

創価学会の「会館」といえば、全国各地の「文化会館」や「平和会館」が思い浮かぶが、

「大阪の学会の悲願は、東京・八王子にある『東京牧口記念会館』のような、特別で大規模なハコを大阪に造ることなんです」(同)

東京牧口記念会館は、初代会長の牧口常三郎を記念して1993年に建設。地上8階建てで、延べ床面積は2万平方メートルに及ぶ。

「牧口記念会館では全国から幹部が集まる『幹部会』などが開催され、その様子は全世界に同時中継されてきました。大阪にも『関西池田記念会館』があります

ビジネス 連日盛況 投資家バーなる 銀座の店を訪ねてみた

店は銀座8丁目の古びたビルの4階にある。きつと仕手株を業とする目つきの鋭い男たちがトグロを巻いているのだらうと扉を開けたら、そうではなかった。

「いらつしやいませー! すみませんが、いま一杯なんです」

従業員が申し訳なさそうな顔を見せるが、まだ夕方5時半である。しかも、午後9時の閉店まで満杯だという。店内をのぞくと客

が、牧口記念会館には遥かに及ばない。かつて公明党は関西の選挙で圧倒的な強さを見せ、大阪の学会は、常勝関西を自負してきましたが、近年は維新に押されっぱなし。象徴的な会館を早く建設し、求心力を取り戻したいのです」(同)

300億円で広宣流布。その効果やいかに。

銀座コリドー街の一角に『投資家バー STOCK PICKERS』が開店したのは、3月8日のこと。カウンターとテーブルで25席とこぢんまりした空間である。派手な宣伝もしていないのに、夕方になると客が集まってくる。

実はこの店、オープン前からネットで話題になっていた。店から出てきた客の

多角化裏目でしゃぶり尽くされた 「ナニワの名刹」告発の行方

結果的に、ナニワの名刹として知られる真言宗「正圓寺」（阿倍野区）が乗っ取りの危機に瀕したのは、十五代目住職が架空の「残高証明書」を大阪市に提出したからだ。特養老人ホームの運営目的で設立された社会福祉法人「天下茶屋聖天福祉会」。その基本



vol. 97

のである。

形だけやから

挙げ句、今西組から焦げ付き回避として、正圓寺とともに個人でも「連帯保証」を求められた辻見寛彦住職が、前号からの証言を続ける。

「残高証明の不正を嗅ぎつけた不動産ブローカーからは、アタタ、そりゃ犯罪やないか!? 逮捕されるかもしれないぞ」と脅され続けました。その一方で、差し押さえ逃れの防衛策を入れ知恵された。今西組に取られないように、まずは寺所有の西成の土地を不動産ブローカーが実質支配下に置く会社にな義変更。さらに、本堂が建つ土地も差し押さえの価値がない土地に見せかけるため、同じ会社から

の借金2億円の担保に入れた。しかし、いずれも偽装された取引のため、寺には1円も入金されませんでした」

正圓寺の敷地は1万3000平方メートル。おおまかに隣接する西成区に入り込んだ「西成の土地」、「本堂が建つ土地」、さらに、「特養老人ホーム予定地」、その隣の「駐車場予定地」の四つに分けられる。

「今西組が請負代金請求訴訟を起こしてきたのは、2019年8月のこと。それに先駆け、不動産ブローカーから、会長が引き合わせたい人がいるそうや」と新大阪のファミレスに呼び出されました。のちに、会長とは不動産ブローカーが「わしの師匠」と呼ぶ名うでの「事件屋」だとわかった。当初、出向くことに戸惑っている、寺が取られるかどうかの瀬戸際やないか!? 住職の逮捕もかかっているんやで」と、再び脅しをかけられました」

ファミレスでは、不動産ブローカーや事件屋、司法書士らが雁首を揃えていた。「事件屋は顔を合わせるなり、これで安泰や。色々書類あるけどハンコ押してや、今西組と話をするにもカネが動いてるように見せなあかんねん」と言い出した。躊躇していると、ホンマに逮捕されるし、寺も取られる。形だけやから」と追いつめられた私は25枚くらいの書類に次々とハンコを押してしまいました」

しばらくすると、正圓寺で異変が生じ始めた。

「何人もの開発業者が、寺が売りに出ている」と視察に訪れるようになり、意味がわからず、本堂が建つ土地の登記簿謄本を取り寄せた。すると、借金2億円のほかに、あらたに事件屋が都内の建設会社から融資を受けた4億円の担保として、勝手に差し入れられていたのです」

なおかつ、形式的な名義変更だったはずの西成の土

への協力を要請しました」

20億円です

20年9月、スポンサーから「今西組の請求をかわすには寺の財産をゼロに見せかけるしかない。寺名義でまだ残っている本堂が建つ土地も一旦、俺の会社名義に移した方がいい。決してどこかに売ったりしないから」と持ちかけられた。辻見住職は脇の甘さから、またしても騙されるのだ。

「西成の土地以外の寺の土地全部がスポンサーの名義に変わりました。その一部を売却し、利ザヤを得ることで再建に手を貸す約束でした。実際、スポンサーが2億5000万円を支払い、今西組との問題を解決したところが、昨年12月に発覚したのは、寺の土地をまるごと20億円で売り出していた事実でした」

売却話を持ち込んだ先は、「アスキー」創業者で須磨学園の西和彦学園長や大手タクシードライバ傘下の不動産会社だったという。

「事前に、スポンサーの企てに気づき、契約を取り消すことができた。しかし、それ以降も買い手から依頼されたと思われる測量士が、度々寺に現れている。このままでは、寺の解体は時間の問題です。それを阻止できないかと、今年2月末、大阪府警阿倍野署に事件屋とスポンサーらを詐欺容疑で刑事告訴し、受理されたのです」

目下、捜査対象者となった事件屋に話を訊こうとしたものの、取材拒否。

一方、スポンサーは、「今西組の債権を買い取ったり、担保を外したりするのに10億円以上を注ぎ込みました。正圓寺再建のために辻見さんは住職から外れることを了承したのに、いままさら警察に訴えると言いついて。こちらこそ、騙された被害者です」

弘法大師の威光もむなしく、海千山千の兵どもの手の命運は、警察の捜査次第ということになる。



Illustration 高柳浩太郎

地もあることか、不動産ブローカーが実質支配下に置く会社から、第三者の分譲住宅販売会社に無断で転売されていたのである。

「民に嵌められたのではないかと不安にかられ、弁護士に相談したところ、住職、そりゃ騙されているよ」と忠告されました。すぐさま、弁護士から不動産ブローカ

「防衛策の意味なく、特養

老人ホーム予定地が今西組に差し押さえをかけられ、構いなしに、19年7月、特養老人ホーム予定地と駐車場予定地の二つを自分の会社名義に変更する手続きを取った。もちろん、私の知らない間にです。さらに、その翌月には事件屋のスポンサーとして知られる人物が経営する会社へと転売されていきました」

不当な取引であるため、最終的な所有者である事件屋のスポンサーと直談判することにしよう。

「スポンサーは、住職了解の取引やと思ってた。俺も騙されたんや」と釈明し、お互い被害者やから手を組もう。生活費がないなら出してあげるし」と。さらに、自分は泉佐野市の市長やボクシングの亀田兄弟の後援会長を務め、大関朝乃山のタニマチでもあるとも明かした。真偽は不明ですが、人脈を持ち、規模の大きな会社の経営者だからと信用し、不覚にも寺の再建